

学校現場から悲鳴が聞こえる

第11回「長時間労働になっている保育士の勤務時間」

少子化により、保育士は余っているように思われていますが、働く女性の増加もあり、保育士不足が問題となっています。待機児童が2.5万人と言われ、保育所や認可外保育施設の新設が進んでいる都市部では、保育士不足が深刻な課題となっています。

その理由として、保育士自身の「低待遇」や自己中心的な保護者からの要求（モンスターペアレント）についていけないなどといった理由からの離職や、新規学卒者の保育施設への就業率の低下などが挙げられています。今回は、学校現場ではなく、保育士から保育に関わる悩みや課題、保育園の実情を聞きました。

11 時間労働が常態化

記者「私には幼稚園や保育園に通園している孫がいます。たまに保育園に迎えに行くこともあります。直接先生方と話しをする機会もないので、分からないことも多々ありますが、まずは勤務時間から伺います。」

Nさん「保育時間は30年前には8時間でしたが、今は11時間以上です。7時から19時が常態化しています。土曜日は申し込み制で、園によって保育時間は違ってきます。産休明けから就学前の乳幼児保育のため、首のすわらない赤ちゃんも入園します。お迎えが遅くなればもちろんサービス残業です。早番と遅番では、2時間の出勤時間の差があり、小学生くらいまでの子どもがいる保育士はやりくりが大変です。有休も病気でないと取れないです。夏休みも特休ではなく有休です。だから有休消化率ではOKということになります。その夏休みも園全体の保育体制があるため（お盆も休みはない）なかなか休みたいときに休めないですね。給料は安いですよ。他の企業より10万円安いとよく言われています。定期昇給はありますが、消費税が上がったりで実質賃金は下がっていますね。」

記者「当然ながら保育士自身にも子育てがあり、7時から19時というのは辛いですね。学校も長時間労働が問題となっていて、日本

の学校は世界でも突出しています。同じことが保育園でも言えるようです。休憩時間はどうなっていますか。」

Nさん「1時間とれるはずですが、実際には9時間拘束ですね。しっかり取れている園もあるようですが。一人担任で交代職員がいないと休憩は無理ですね。」

記者「相手が乳幼児なので、全てを見ていないではならないのでしょうか、食事などはどうなっていますか。」

Nさん「0歳児担任は、離乳食、普通食を食べさせながら自分も食べるので、流し込むように食べたり、食べきれずに残してしまうこともあります。園児には『良く噛んで食べようね』と指導しているのに自分のことになるとそうは言っていないですね。」

記者「交代職員がいないと大変と言いましたが、職員の配置や関係はどうですか。」

Nさん「私の職場は正規職員が8人、パート職員が7人ですが、正規職員が多いとは言えません。交代勤務は正規職員だけですが、急な休みが入るとすぐに超勤になります。職員の関係ですが、年上のパートさんに対しては、若い正規職員は言いたいことが言えず、クラスがギクシャクすることもあります。また、複数担任はそれぞれの経験年数や保育観、年齢の立場も違うので難しい一面もあります。」

子どもの命を預かる仕事

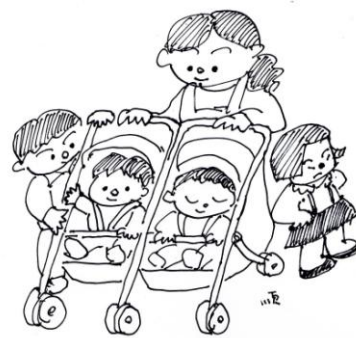
記者「年齢差や経験の差という課題を埋めるのは難しいですね。でも、いい教育（育て）をするには学校も保育園も民主的な職場づくりが大切という点では同じだと思いますが、ここで具体的な仕事内容について話してもらえますか。」

Nさん「ニコニコしながら『お預かりします』と言った時から命を預かっています。突然死やプールで溺れたなどあってはならないわけですから。3ヶ月の赤ちゃんを預かるときはベビーセンス（赤ちゃんの呼吸や動きをセンサーで感知する）を購入したり、ブレスチェックでは息をしているか何度も口元に手を当てたり腹部の上下運動を目視したり、本当に神経を使います。ベッド回りには何も置かない、ミルクを吐いていないかなど、必ず一人は職員がそばにいるように保育体制をとります。ミルクについては、家での最終時間をチェックし、個々に合わせた時間、量、体調に応じてその日その時で変えています。1回のミルクに、お湯、湯冷まし、粉ミルク、哺乳瓶の用意、哺乳時間（20～30分）その後は、洗浄、消毒、乾燥など、トータルで2時間以上かかっているのが実情です。0歳児は赤ちゃん3人に対して保育士一人です。一人にミルクを飲ませている時、他の二人は誰がみるというのでしょうか。赤ちゃん5～6人を保育士二人体制ならば、一人が飲ませ、一人はその他の赤ちゃんを見守らなければなりません。」

記者「保護者との関わりで言いたいことはありませんか。」

Nさん「保育士のアドバイスを聞かない、保育士が年上であっても、友達のような言葉遣いをしてきます。仕事は急に休めないのですが、熱が37.5度以上で連絡しますが、お迎えが来ない。3人目以降の保育料は無料なので、働いていないのに知り合いに証明をもらい預けている人、勤務時間

後に兄妹の習い事や買い物などで直ぐに迎えに来ない人、保護者の仕事が休みの時くらいは早く迎えに来てくれれば子どもも嬉しいのにとおもいます。それから、国は女性が働けるよう、保育園を増やせとっています。女性の社会進出は大賛成ですが、保育園で働く保育士は女性がほとんどです。保育士が働き続けることができるように環境を整えなければいくら保育園だけ作っても無駄のように思います。なぜ潜在保育士が多いのか、国にも考えて欲しいと思います。結婚、妊娠、出産で辞めさせられることは珍しくありません。保育士の使い捨てです。経営者からすれば、新卒をより安い賃金で文句も言わず働かせた方が良いでしょう。少子化対策で、保育士を現場に戻したいと考えるなら、今の社会的地位は全ての面で低すぎます。国のお偉いさんに1日でも居てみてもらいたいですね。」



子どもの成長がパワーのもと

記者「怒り爆発という心境ですが、長く勤められてきたことは何でしょうか。」

Nさん「人見知りしている子が笑顔を見せてくれた時、昨日までできなかったハイハイが出来た時、『センセ』と初めて言った時、はじめの1歩を見た時、こんな小さな幸せを毎日少しずつもらえるからです。」

記者「保育士の目を通して見た職場の課題からは、もっともっと子育てがし易い社会の仕組みづくりや、女性が働く環境の改善など、国の政策を動かしていく必要性がたくさん見えました。」